



「活着ていることわざ」

船橋市議会議員

神田廣栄(かんだひろえい)議会報告

【事務所】船橋市前原西8-24-8 ☎490-3333 FAX 465-7117

Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.hiroei.jp>

身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ・君子(くんし)は豹変(ひょうへん)す

【身を捨てて…】◇開き直って、一命を投げ捨てる覚悟で事にあたれば、おのずから活路が開けるものだ、ということ。

・水におぼれた時、あせってもがかないで体を流れにまかせれば、自然に体が浮いて助かることがあるの意。

【君子は豹変す】◇君子は自分の過ちに気づくと、直ちに改め、良い方向に進めていく、ということ。

・「豹変」は、豹の鮮やかな紋様のように、人の態度ががらりと変わること。現在では、主義主張を簡単に変えてしまふとか、態度が悪い方へ変わる意味に使われることが多い。

この報告書(活着ていることわざ)をお渡ししている頃は、内閣総辞職か衆議院解散か、何か動きがあるような気がします。言葉に責任感の全く感じられない総理大臣が、数年来何人も続いており、空虚感を感じているのは私だけではないと思います。

与党では、屁理屈(へりくつ)を並べるだけの逃げの一手で、本当は臆病者の元代表。辞めると言って辞めず、自分の言葉の軽薄さが解らず、犬の遠吠えばかりしている元首相。再議決する数合わせのために、折角離婚した(この時はホットしました)のに復縁をせまり振られた現首相。そして、その下で『身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ』と意見も言えず、損得勘定ばかりしている国会議員のなんと多いことか。さらに野党も野党で、揚げ足取りばかりの政局に明け暮れの日々……。全員に一致するのは一国を預かる資質が全くないことです。

もし私が首相であったなら、国民生活に直結する平成23年度予算と予算関連法案は、野党(自民党等)が修正案を提出したら、その良い部分を取り入れることを条件に賛成してもらう。与党民主党が割れることを恐れる必要など全くありません。割るなら割ってもらい、表に出ないお金の分け前を貰い忠誠を尽くしているようなウミを出せばいいのです。

私たちは政権公約(私はマニフェストという表現は好きではありません。ましてアジェンダなんて単語は大嫌いです)の全てに賛成して現政権を選択したのではなく、長年政権を担ってきて、既得権益に走り利益誘導型の政党への不信感や不満から、あの政権交替があったのだと思っています。公約にこだわり続けること



は国民のためにならないことを知るべきです。

今、求められるのは、是々非々をはっきり言える君子(くん)です。『豹変する君子』です。過ちがあったら直ちに正すことが大切です。

平成20年6月議会で「岩手県沢内村にみる生命行政」を紹介し、船橋市も見習うべきだと訴えました。以前にもこの「活着ていることわざ」にも書きましたが、こんな時ですから敢えてもう一度書かせて戴きます。



丈夫に育ってますよ

敗戦後の混乱の中で、東北の各地域は疲弊(ひへい=すっかり疲れて弱ること)していて、その中でも沢内村は奥羽山系沿いの寒冷多雪地域にあり、昔から豪雪・病気・貧乏の三悪に苦しむ極めつけの僻村(へきそん=片暗の村)でした。

その沢内村の深沢晟雄(ふかさわせいゆう) 村長は、NHKの「その時歴史が動いた」にも取り上げられました。

全国で乳児死亡率最高位の岩手県でも、さらに沢内村は一番死亡率が高かったのです。それを苦難の道程を乗り越えて、ついに死亡率ゼロを達成しました。

それだけではありません。貧乏で医療費も払えず死亡する人が多すぎるので、老人医療費を無料にしました。つまり国民健康保険料を無料としたのです。



簡単に無料とはいきませんでした。国や県と相談しても法律を楯に「できない」という、いつも通りの返答です。しかし彼は「国民健康保険法に違反するという県に対して、沢内村がこれをやらなければ住民が生活できないものを、これをして裁判されるなら受けて立ちましょう。憲法に照らして、私は絶対負けない」と強い決意で実行したのです。

文章にすると簡単になってしまいますが、この経緯は出版され、映画化もされ、感動して読み鑑賞しました。

私は、これこそが「生命の行政」であると確信していますし、国民、市民を生命・財産を預かる責任者は、この気概が必須であると思います。

ところで、2月19日に幕張のAPAホテル&リゾートでジャーナリストの櫻井よしこさんの「今、日本が直面する内外の課題」という講演会を拝聴しました。彼女は、中国やロシアとの領土問題などを説明し意見を述べられました。国を滅ぼしかねない日本政府の弱腰を批判し続けました。私も以前から彼女の考え方に同調していますし、彼女ほど何事も恐れることなくはっきり意見を述べる人は、国会議員といえども誰もいません。

「国防費」とは国を守るための防衛費です。戦争を仕掛けるものではありません。以前、ある党の人が、習志野自衛隊にミサイルを追撃できるPAC3を導入する際に「こんなものを習志野に設置すると標的になる」という理由で猛反対しました。その人に「例えば北朝鮮が日本に向けてテポドンミサイルを発射したらどうするのか」聞いたところ「その国は話をすれば分かってもらえる」等と夢物語を言っていました。

右を向いても左を見ても寂しい限りですが、せめて私たちは力を合わせて住み良い船橋にしていきましょう。



話せばわかるかな?